

しようぼうの広場

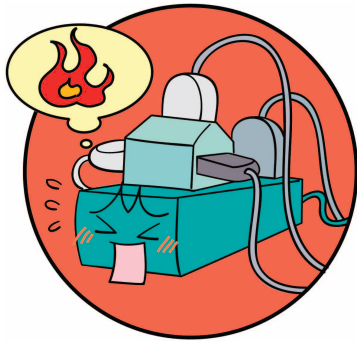
火災・救急・救助は...

119

電源プラグ・コードは定期的に点検しましょう

私たちの身の回りには家電製品がふえて、生活が便利になる反面、電気による火災の心配もふえてきます。家電製品を安全に使用するには、電源プラグやコードの正しい取り扱いが大切です。誤った取り扱いをすると火災の原因になり大変危険です。

・次のような点に注意して、いま一度ご家庭内の点検をしてみてもいいでしょうか？



- ・配線器具には電気を流せる容量が決められています。
- ・1つのコンセントやテーパータップから電気器具をタップ足配線して使うと、電気を流せる限度を越えてしまったコンセントやテーパータップが発熱し、発火やショートをして火災の原因になります。
- ・許容電流を十分理解して、使用機器の消費電流にも気を配りながら使用することを心がけましょう。

タップ足配線を

していませんか？

プラグにホコリが溜まっていませんか？

プラグとコンセントの隙間に溜まったホコリが湿気を帯びると、火花がでます。

・これを長い時間放っておくと、プラグ間に電気が流れ発熱し発火する「トラッキング現象」が起こります。

・家電製品は使用していても通電状態であればいつでも発火する可能性があります。

・湿気の多い所や家具の裏などにあるコンセントに差しっぱなしのプラグは、こまめに掃除をしてホコリや水気を取り除きましょう。

トラッキング現象とは？

- ①差したままでホコリがたまり、水分を含みやすくなります。
- ②ホコリや水分から電気の通り道ができます。
- ③電流が流れ、火花が飛び散ります。
- ④加熱され材質が炭化し、更に流れる電流が増えます。
- ⑤発火します。

コードが家具の下敷きになっていませんか？



・電気コードがタンスなどの重たい家具の下敷きになると、電気コード自体が傷つくなど電気の通り道を阻むこととなります。

・それによって、行き場を失った電気がその場所で発熱してショートし、火災につながります。

・家の中の電気コードを再確認して下敷きになっているのを発見したら、電気コードが傷ついていないか、変形していないか確認してください。

消防一口メモ

備えて安心

住宅用防災機器

・住宅火災による死者は、建物火災による死者の約9割を占めており、特に65歳以上の高齢者はその半数以上を占めております。高齢者は火災に気が付くのが遅れがちで、避難するのも遅くなります。そこで、消火器、住宅用火災警報器、安全装置付の調理器具、暖房器具、そして、火が燃え広がりにくい防災製品などの住宅用に適した防災機器を備えておくことは、火災から命と財産を守るための大切な防災対策です。

3月の火災・救急情報



救 急		火 災	
◆出動件数	94件	◆発生件数	2件
◆運んだ人	86人	◆内 訳	
◆内 訳		車 両	1件
病 急	50件 44人	そ の 他	1件
交通事故	10件 8人		
その 他	34件 34人		